

---

# 総司はとわに

仁

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

総司はとわに

### 【Nコード】

N0545Q

### 【作者名】

仁

### 【あらすじ】

新選組沖田総司の問わず語り。

最期の時、人はその人生を走馬灯の如くに想起すると言います。

**（前書き）**

幕末の動乱期にあつて新選組の中核を担つた沖田総司。  
彼の人生は満たされたものであつたと信じたい。

衆道？ もちろん知ってますよ。江戸にだって湯島や芳町に陰間茶屋がありましたから。隊士の中には宮川町に通っている人もいましたよ。でも、そんなじゃないんです、私と近藤先生や土方さんとは。そうだなあ、言うなれば親兄弟への思慕に近いのかな。

私は幼い頃に両親とも亡くして姉夫婦に育てられましたから、父も母も顔は覚えてないんです。それに男兄弟もいなかったから、年の近い男の人があまり身近にいなかったんですね。そこへきて試衛館へ内弟子に出されたでしょ。だから近藤先生は父代わり、土方さんは兄代わり、ってところかな。もともと土方さんは悪さばかりしてたから見習うべき兄貴分ではなかったですけど。でも男気だけはあつて、筋の通らない事で苛められてる子があつたりすると、代わりに殴り込んでいたり。滅多に負けなかったなあ。強かったんです、その頃から。喧嘩は実践での勝利あるのみ、とか言つて自己流だったから型は滅茶苦茶ですけどね。

土方さんは顔が良くて女性にもてたから、しょっちゅう浮き名は流してました。でも男同士で、って話は一度も聞かなかったな。ほら、あの人は筋金入りの助六だから。京に上ってから遊女にもらった大量の付け文を多摩に送りつけたらしいし。いかにもらしいですよ。内心嬉しがつてるくせに、渋い顔してるんだから。それで郷里にはもて自慢。まったく嫌になっちゃいますよね。でもそこが可愛いんです。可愛いなんて本人に聞かれたらどやされますけどね。

あ、そういえば土方さんに小姓がいましたね。市村鉄之助くんと田村銀之助くん。どちらも可愛い子です。でもあの人の事です、女の方がいいに決まってるあ、とかなんとか、別にそんな関係ではなかったと思いますよ。あ、でも土方さんって意外と武士道にこだわってて、隊服にも忠臣蔵の討ち入り衣装を取り入れたくらいだし

たね。討ち入り衣装って言っても、あれ、四十七士が実際に着た訳じゃないですよ。歌舞伎でそういう見た目が派手なのにしたただけだそうです。

と、話がそれましたね。とにかく土方さんは武士道にこだわって、家の庭にも矢竹を植えたんです。だから、もしかしたら武士のならい、とか言ってたのかも。分からないですよ、私は。見た目には全然分からなかったな。

でもいいなあ、土方さんと一緒に戦えて。私はこんな有り様だから、もう剣も満足に握れないんです。刀ってこんなに重かったっけ。猫一匹斬れないんじゃない、戦場に行ってもろくに働けないのは分かってるんですけどね。

ああでも試衛館で馬鹿話しながら剣に打ち込んで、清河さんの浪士隊に参加して京に上って、おいしい京菓子を食べられて、近藤先生や土方さん、井上の源さん、永倉さんや原田さん、斎藤さん、油小路で亡くなった藤堂くん、切腹した山南さんたちと一緒に駆け抜けて、あ、芹沢先生もちょっとかわいそうだったけど根はいい人だったなあ。こうしてみると、私の人生、そう悪くはなかったと思う。いい人たちに囲まれて、つらい事もみんなで乗り越えて、公方様や帝の御為にせいっぱい働いて。うん、いい人生だったよ。ねえ、ばあさん。

あ、近藤先生が呼んでる。山南さん、藤堂くん、源さん、芹沢先生まで。芹沢先生、またお酒ですか。あれほど飲み過ぎちゃだめです、って言ったのに。近藤先生、取り上げてきました。お一ついかがですか。

じゃあまたいつか続きをお話しますね。さようなら。

(了)

（後書き）

新選組の歴史および沖田総司についてご存知ではない方は是非調べてみて下さい。

この作品の意味がより良く分かるものと思われます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0545q/>

---

総司はとわに

2011年1月16日06時46分発行